

中之島フェスティバルタワー
レリーフ製作プロジェクト

「牧神、音楽を楽しむの図」



これから

★	の	☾
百	年	を
考	え	る

— 目次 —

「旧レリーフ」から「新レリーフ」へ	■ 第Ⅰ回
「新レリーフ」製作検討 1	■ 第Ⅱ回
「新レリーフ」製作検討 2	■ 第Ⅲ回
本製作 1	■ 第Ⅳ回
本製作 2	□ 第Ⅴ回
取付工事	□ 第Ⅵ回
完成	□ 第Ⅶ回

【中之島フェスティバルタワー 建物工事概要】

事業主：朝日新聞社	階数：地上 39 階（うち塔屋 2 階）、 地下 3 階
設計：日建設計	高さ：200m
施工：竹中工務店	建物用途：事務所・ホール・店舗等
工期：2010(H22).1月～2012(H24) 秋	延べ面積：約 14 万 6,000 m ²
所在地：大阪市北区中之島 2-22（地番）	

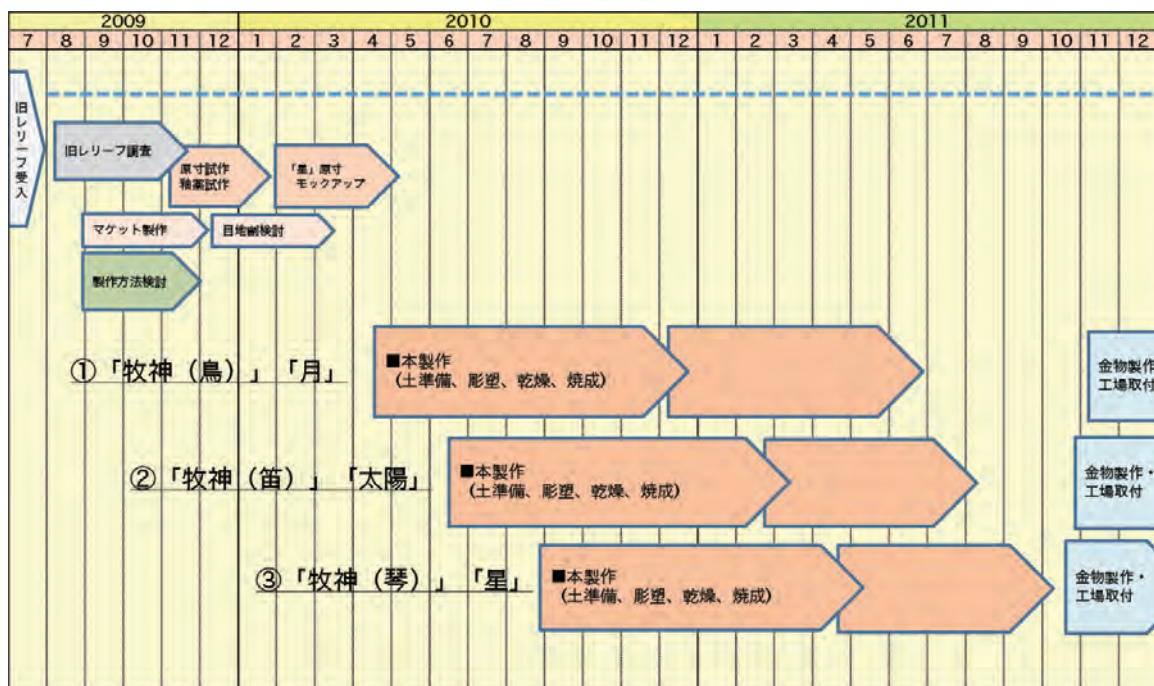
第IV回

本製作 1 調土から彫塑へ (春～秋)



🐉 春から秋にかけて、三期に分けた製作

「星」の原寸大試作によるモックアップが終了し、製作方法と工法が決定しました。並行して陶土の調合が進められ、本製作が始まりました。レリーフは巨大であり、6体同時に進めると、本体陶土の彫塑に支障をきたすと判断したため、レリーフ6体をそれぞれ2体ずつ春から秋にかけて三期に分け、製作を行うことになりました。



■ 製作スケジュール

レリーフ製作工程 (陶土準備～彫塑完了まで) 春～秋にかけて彫塑を終えるスケジュール。

第1シーズン: 「牧神(鳥)」「月」 2010年4月～7月

第2シーズン: 「牧神(笛)」「太陽」 2010年6月～9月

第3シーズン: 「牧神(琴)」「星」 2010年9月～12月

🐉 あらためて感じたその大きさ

第1シーズンの「牧神(鳥)」と「月」だけでも約100ピースの土ブロックが必要です。1/10、1/5とマケットを順に製作しましたが、いざ本製作のための土ブロックを敷き並べると、その大きさにあらためて圧倒されます。それは予想していたものの、実物を前にして初めて実感できたことでした。先生方も、「どこから手をつけていけばいいのだろう」と笑いながらも戸惑っておられました。本製作のレリーフは牧神1体当たり約6mもの大きさとなります。全体の印象や仕上がり感

を人間の視覚でとらえるにはあまりに大きいサイズなのです。それを忠実に、加えて大胆に、設置した時のイメージをも考慮して作りあげていく必要がありました。建畠先生の言葉を借りれば、それは、新解釈でのレリーフ創出ということになります。



■ 高さ 12m から新/旧レリーフを見下ろす



■ 全体を俯瞰し、確認しながら作業をすすめる

マケットはあくまで習作にすぎない。その観点から、先人たちの作品の前で、新しいレリーフを創り出していく。先人たちの想いを感じ取りながら、敷き並べた土ブロック目がけ手を入れる。初回の彫塑作業は、監修の先生方に 5 日間滞在していただき、精力的に作業に携わっていただきました。

🐼 各シーズンに 3 度の監修

監修の先生方にはシーズンごとに、彫塑作業、表面テクスチャ作業、最終確認の 3 回、信楽工場に足を運んでいただきました。節目ごとに監修いただき、その間の作業は当社に任せていただくことになりました。



■ 「牧神（鳥）」

1：ブロックの敷き並べ、粗取り

成型機で押し出された土ブロックに対し底面、側面の粗取り。側面（高さ方向）はひとまわり大きく粗取りする。その後、図面を 1.1 倍に拡大し印刷したフィルムの上に土ブロックを敷き並べていく。



2：粗彫り

1/5 マケットで測定した各ピースの高さを元に土ブロックの粗彫りを行う。監修者が手を入れるため、削りすぎないようにする。



3：彫塑作業

監修者による彫塑。全体を俯瞰し確認しながら彫る。(写真：監修者の鷹尾先生)



4：表面テクスチャ

様々な道具を使用し、テクスチャを入れていく。(写真右：左から、監修者の建昌先生、鷹尾先生)

土ブロックを敷き並べての彫塑

土ブロックを敷き並べて彫塑する方法をとったのは、レリーフと対峙しながら作業を進めるためでもありました。計測した通り1ピースずつ正確に削っていけば、忠実な再現レリーフをつくることは可能かもしれません。しかし、先生方、また私たちが、レリーフに対して、そのフォルムやテクスチュアを、手で、目で、体で感じながら作業することにより、新しい作品を創出できると考えました。



■ 彫塑およびテクスチュアを入れるための道具

監修の先生方にも自前の道具を持ち込んでいただき、当社で準備した道具と合わせて作業を行った。荒削りするヘラ、包丁、垂木、テクスチュアを入れる石など、様々な道具を使い製作した。

暑さと乾燥との戦い

製作ヤードは冷房もなく、体育館のように広い空間であるため、夏場は30℃を超える暑さになります。ちょうど第1シーズンの仕上げの工程と第2シーズンの彫塑はこの時期にあたり、先生方にはTシャツを何枚も準備いただかなければならないほど、汗だくになりながら作業に没頭していただきました。また、この暑さは、土の乾燥を早める原因になるため、彫塑しない間は水分を加え、毛布などで養生し、土のコンディションを保つ必要がありました。



■ レリーフ養生中

彫塑の仕上げ

作業が進むにつれ、どのように修正していったかがわかるように定点観測写真を撮り、作業経緯のチェックを行い、また、製作ヤードを見下ろせる場所から観察し、フォルムを定めていきました。最終的には測定した寸法ではなく、全体のフォルムを優先した仕上げを行いました。



■ 写真による作業確認

行った作業の写真を時系列に並べ、作業経緯のチェックをする。



■ 「牧神（琴）」彫塑完了

敷き並べたところ、琴部が重く感じられたため、左腕を基準に、琴上部へ向かって徐々に厚みを減らしてバランスをとった。

協力（敬称略）：朝日新聞社／朝日ビルディング／
建畠朔弥／鷹尾俊一／建畠哲／
日建設計／竹中工務店

中之島フェスティバルタワー <http://www.asahi.com/festivaltower/>

※ 当レポート内の画像及びその他内容の無断転載・転用を禁じます。